（別紙4）　　平成　30　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4392600096		
法人名	株式会社　かいごのみらい		
事業所名	グループホーム　武蔵ヶ丘		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町武蔵が丘北1丁目8－1		
自己評価作成日	平成31年2月20日	評価結果市町村受理日	平成31年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	平成31年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な住宅地の中にある地域に根差した明るく開放的なホームです。家庭的な雰囲気の中で共同生活を通して、ご利用者様個々の意思やライフスタイルを尊重しながら、職員一人ひとりが認知症介護の専門職としての意識を持ち適した支援を心掛けています。ユニットの垣根を越えた毎日の機能訓練やレクリエーション等での交流、パーソナルスペースに配慮した支援等、楽しく笑顔で安心して穏やかに過ごしていただいています。特にレクリエーションは、職員が奏でるハーモニカの音色に合わせて懐かしい歌を唄ったり等、各職員がその有する持ち味を最大限に生かした取り組みで飽きない工夫を凝らしています。また、季節のしつらえや行事、日々の散歩等で季節の移ろいを感じていただいています。自治会長様・民生委員様をはじめ、地域の皆様のご協力によるボランティア活動も活発になり、楽しみ支援の強化に繋がっています。ご家族様よりゴーヤやトマトをホームで栽培していただき、一緒に収穫したり献立メニューに取り入れ、新鮮な採れたての美味しさも味わっていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

玄関先やホーム内の至る所に飾られた草花をはじめとした季節感のある環境作りや、「食は楽しみと健康の源」の考えのもと提供される日々の食事支援、入居者が家族と一緒に外出を楽しむためのサポートなど、管理者を中心に職員の個性や特技を活かしチームワークを持って真剣にケアに取り組んでいる。また、開放的なホールでは生のコンサート（フルート・ハーモニカ）をはじめボランティア交流の機会も増えており、更に入居者の楽しみが広がっている。職員は努めて入居者と一緒にゆったりと過ごす時間を心掛けており、職員からの一方的な語りかけだけではなく、入居者から声を出してもらえる介護を目指している。居室での生活が中心になっても、同じ時間を共有できるよう、その方のユニットホールで歌うなど、あらゆる場面で人生の先輩への労いの支援を見る事が出来た。地域や行政からの信頼も厚く、その思いに応える姿勢が高く評価できる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝礼時理念の唱和し、理念を念頭に置きその日の業務に従事している。理念に沿った介護を目指している。又、会議等で職員間で理念に沿ったケアを確認する場としている。	開設から5年目を迎えたホームでは、法人の運営理念や方針がホームの中で主たる理念となっており、職員の中にしっかりと定着している。本年度は特に法人が運営する、初任者研修に管理者が講師として職員が受講生として参加しており、高齢者福祉についてあたらめて学ぶ機会を得ている。この一年は職員の離職もなく、馴染みの職員による支援が入居者の日常を支えている。	新年度に向けて地域密着型事業所としてのホーム理念について、検討されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様と近隣散歩継続することで声を掛けてくださる方々が増え、自治会自らホーム前の道路は出来るだけ迂回して車の運転を控える等、安全活動への配慮を実践していただけている。	ホームの玄関先や室内を彩る（ウエルカムフラワー）は、差し入れや職員の持ち寄りにより季節感あふれる空間を作り出しており、訪れるものにも心豊かな時間を提供している。また、花の水替えも入居者の役割となっている。地域代表者の情報がボランティア発掘に繋がり、ピアノやフルートなどの生演奏が提供されている。地域に支えられて今があることに感謝しながら、年4回の地区清掃には前日から現地へ出向き、下準備をするなどの取組を実施している。	本年度ナイストライなど福祉体験の受け入れは無かったものの、地域の代表者を通じ、子ども会や小学校との交流を打診しており、今後相互交流に繋がることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の清掃作業や地区行事への参加、近隣の住民の方々と積極的に地域交流を図っている。また区会合に参加し、認知症についての理解を求める場への出席をしている。介護教室や認知症サポーター養成講座講師として活動している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーを増員し評価や意見等も幅広く活発な会議運営となりサービスの質の向上に努めている。毎回入居者様の参加と新入所のご家族様は直近の会議への出席を頂いている。積極的に情報開示し、会議での貴重なご意見や要望等、全体会議等で討議している。	会議は地域交流室を会場としており、職員が輪番で同席することで、家族や地域の生の声を支援に反映させることが出来ている。ヒヤリハットや事故報告、外部評価結果について資料を配布して情報を発信し、本年度は身体拘束への取組を強化して、内・外の研修の充実と、一人ひとりの職員が自己を高めながら支援にあたることを目指している。会議を地域とをつなぐ重要な機会と位置付け、良い点も反省すべき点も全て公表することを目的としている。	会議を使う利用し入居者の排泄や食事、入浴など普段の取組をテーマを決めて紹介することも良いと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター運営協議委員メンバーとしての活動の継続と、都度役場へ出向きアドバイスを受け、施設の資質向上を図っている。また、福祉事務所等と協力体制を図り、スムーズな生活保護受給申請へ繋げていく。	行政や地域包括とは運営推進会議を通じ、ホームの現状を明らかにして報告することで情報共有が出来ている。包括職員の提案から、地域の同事業所の運営推進会議に管理者が参加し、ホームの取組みを発信したり、包括の会議にも同席して地域全体の福祉の向上に向けた努力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご契約の際、身体拘束しない方向性の趣旨を必ず説明している。身体拘束がもたらす肉体的・精神的苦痛等を理解し拘束を行わないケアを実践している。身体拘束委員会の活動を積極的に開催し、委員メンバーを外部研修へ派遣し、職員研修で周知・徹底を図っている。新入職者へは都度研修を行っている。玄関に身体拘束ゼロ宣言を掲げている。	身体拘束について運営推進会議を通じ、ホームの基本姿勢を示しながら、参加者と共に検討する機会を持っている。拘束廃止への取組は各研修への参加や誤薬防止や薬の適正に向けた大手薬局との連携となって、職員の意識向上に繋がっている。また、やむを得ずセンサーマットを使用する場合においても、他に代わりの物がない場合や一時的な使用など、全ての要件を満たした上で家族の同意のもと実施するものとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について身体拘束研修時に職員勉強会を実施すると共に、職員のストレスケアに努めている。職員のストレス度合いに配慮しユニット配置換えや夜勤等の回数も考慮し勤務（日課）を組んでいる。ケアカンファ時に職員がかかえている問題点を共有し相談や助言の場としている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の外部研修に職員を派遣し、職員会議で研修することで制度の理解と活用方法がの周知を図っている。本部と連携し、今後コンプライアンスのついて職員への勉強会の充実を図る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書について、内容をご確認して頂き了解を得て締結している。また、改定時は本部より事前に文書通知し、ご理解の上変更契約書交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会を開催時や面会時にご要望をうかがっている。毎月担当者と管理者よりご様子を記入した「ご家族への手紙」を送付している。ご家族へ満足度調査実施し、ケアの質の向上に繋げている。	家族の面会も多く来所時には近況を話した後で意見や要望を聞くようにしている。家族会は「武蔵ヶ丘家族会」と命名され、クリスマス会を兼ねた合同行事でピアノの演奏会や食事会とタイアップし、会議の席が設けられている。月の便りは担当職員と管理者が季節を盛り込んだ手書きの文章にこだわり、入居者の様子や行事案内を送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者への意見や要望等を書いた手紙の提出の継続ができている。又、管理者は職員との面談を定期的に実施している。職員会議では全員が意見を述べられるよう話が出来やすい雰囲気作りに努めている。本部より、社長はじめ幹部の毎月職員会議への出席があり職員の生の意見を聴く機会を設けてタイムリー化が図れている。	職員は各研修への参加や、運営推進会議に輪番で同席することで家族や地域の意見、情報を直接確認し、ホームの一員として責任ある行動をとる事も一つの目的としている。代表者への意見、提案を申し出る機会や、管理者が定期的に面談を実施しながら職員の意見に耳を傾け、ホーム運営に反映させている。	今後運営推進会議に代表者の参加が予定されており、更に情報共有の場となることが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の導入に向け本部と連携し基盤創りの着手している。また、同法人内の配置転換の希望をつのり、職員の離職防止と向上心をかき立てられるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修受講できる様に情報提供し参加を推奨している。又、職員より受講したい研修や資格を聴きとり行い、更なる向上を目指している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括と連携しSOSネットワークの基盤創りに着手している。また、同町グループホーム運営推進会議への参加とミーティングを行い、問題点や課題の解決できるよう主となり働き掛けている。地域包括支援運営協議委員メンバーとしての活動の継続と、都度役場へ出向きアドバイスを受け、施設の資質向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に職員間で情報共有の機会を設け、生活歴やリスクの把握に努め、安心してご利用できるよう環境つくりに努めている。不安感の軽減の為、時間をとり落ちつけるスペースでマンツーマンで傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問で、ご本人、ご家族と面談し状況把握や支援内容の確認を行っている。今、何が必要なのかを探り対応するとともに、全職員への情報の周知及び共有を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をもとに入所前にカンファレンスを行い、必要な支援を全職員で討議し、情報の再確認と共有、統一した支援に努めている。また、訪問マッサージや訪問歯科等のご利用されている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が出勤時には、お一人お一人に挨拶をして、一日の始まりの関係作りから心掛けている。又、馴染みの関係性の構築や洗濯ものたたみ、掃除、玄関周辺の掃き掃除など出来る方と一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月／1回手紙で近況報告継続している。面会時には、ご家族様と入居者様が面会しやすい環境の提供と日頃の様子を伝えている。季節の行事や外出等、ご家族様が調理手伝いや後片付け、外野菜の栽培等の援助も頂ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人・馴染みの場所などの把握を行い、定期的な面会や外出などの援助が出来ている。面会時にご家族と近隣の散歩の促し、ホームの行事へ、ご家族の参加の声掛けを行い一緒に過ごして頂いている。	家族の面会も多く、広いフロアーで入居者とのひと時をゆっくり過ごしてもらうよう声かけをしている。専門医への同行や馴染みの美容室への外出支援など家族の協力により実現している。入居者の中には馴染みの化粧品を使う方や自身の役割として、テーブルなどの花の水替えをする方、ベッド中心の生活になっても、リクライニングに移乗し、入居者の中で過ごせる様に工夫するなど、ホームでの馴染みの暮らしにも目を向けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性を考慮し、テーブルでの席について調和を考慮している。トラブルが発生しないように状況確認している。パーソナルスペースを大事にされているご利用者様へは見守りや声かけを行い孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への定期的な訪問や安否確認、ご家族へ手紙や電話等の連絡を行ない、相談・援助や継続訪問している。施設紹介等も行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で、ご利用者様へ声かけを行いお一人おひとりの思いの把握に努めている。定期的なカンファレンスにて意向等検討することで、情報共有後、統一した支援を行っている。ご本人の希望を最優先にしている。	入居者との普段の関わりからホームでしたい事、食べたい物、出かけたい所など具体例をあげながら思いを確認している。家族意見の収集の手段として、家族アンケートの実施も定着しており、内容を共有しながらプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者様・ご家族・入居前の担当ケアマネや利用されていたサービス事業所・主治医等関係各位から情報収集し・ご本人の状況把握に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様のこれまでの生活や嗜好等の情報を取り入れ、個人を尊重した支援の実践のため、都度話し合い行なっている。毎日健康チェックや状態観察を行い、生活の中で気付きと生活リズムに合わせた支援の継続している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様ご御家族より生活暦等の情報を聞き取りし支援に努めている。カンファレンス、モニタリングを定期的に行い、ご入居者様やご家族の希望を確認し、アセスメントを修正しながら意向を十分に反映した介護計画を作成している。	管理者自身が夜勤につくことで日中にない入居者の表情や行動を分析しながら、計画作成担当者とともにプランを立案している。担当職員は日頃の入居者の暮らしぶりを月の便りで伝えたり、会話から思いを引き出し、代弁者としてプランに関わっている。看取り支援時には開始前にプラン内容を家族にわかりやすく説明し、職員体制を整え、いつ何があっても対応できるよう受け入れ態勢を確立している。寝食分離の考えから、他者の声が聞こえる居室近くでレクレーションをしたり、ゆっくり食に関わる等細やかな支援が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に経過記録、日誌、排泄、血圧、食事量、水分摂取等の記録を行ない、経過観察することで心身の管理や変化に気づくことが出来る。介護・看護連絡ノートを活用し情報の共有を図っている。問題等あれば都度ミーティングしノートに記載しているs		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や緊急時の受診、身の回りの必要品の買い物や、職員による理美容のサービス、入院時における身の回りの洗濯物等の支援等、都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアなどの訪問で、歌や踊り、三味線など楽しんで頂いている。ハーバリウム製作やちぎり絵製作など居室に飾られている。天気の良い日には近隣を散歩し、庭に咲く花等で季節を感じてもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医より健康管理については、週1回の訪問診療で対応し、ご家族様へ報告している。主治医と連携し専門医への必要な医療が受けられるよう支援している。主治医の看取りケアへの理解を得て協力を頂いている。	かかりつけ医による往診を受けており、専門医については家族や看護職員、管理者が受診対応している。主治医とは日頃より連携を図っており、看取りケアについても理解や協力を得ている。職員は提携の薬局より感染症や薬の効能について講義を受けており日々の健康支援に活かしている。口腔ケアについては、食後の声掛けや必要に応じた介助を行っているが、職員のみの支援では不十分であり、現在毎月殆どの方が訪問歯科を受けておられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態観察とご利用者様からの訴え、異変の早期発見に努め、異変があったときには速やかに看護師へ伝え、看護師は主治医と連係し適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して入院加療ができる様に、入院先の医師、相談員、看護師と面談行いホームでの情報提供行っている。また、頻繁にご家族と連絡をとり、本人面会行い、相談員・看護師より入院時の状況把握に努めている。洗濯物の支援等も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期・重度化について、御家族、主治医との連携を行い、想定される状態やホームにおける看取りについて充分な説明行い、支援に取り組んでいる。「重度化した場合に医療連携体制指針」についての同意を得ている。	入居時に看取りに関する指針をもとにホームの取組を説明し、その時点での家族の意向を書面に残している。身体状況に変化があればその都度聞き取りを行っている。管理者は主治医との連携やこれまでの経験を活かして看取りに携わることとしており、支援に入った段階で個別マニュアでケアのポイント（環境・食事・水分・入浴など）により支援している。看取り支援では面会などできうる協力が得られており、レクレーションを行う際は、声か聞こえるようその方のユニット側ホールで実施している。	今後も日頃の関わりを大切に、本人や家族の意向を確認しながら、ホームに出来る最終の支援に努めていかれる事を願いたい。また、職員のメンタル面にも十分な配慮や必要に応じた研修の機会を継続いただきたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や特変時に備え、緊急時の勉強会している。感染発症時の対策について法人として統一したマニュアル作成に取り組んでいる。提携薬局より応急処置の研修予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署立会いの訓練を行っている。消防機器の点検を業者に依頼し、何時でも使用可能な状態にしてある。災害発生時に備え、食材は常に備蓄している状態である。自治会長と連携し地震災害への訓練の検討もしてる。	消防署立ち合いによる訓練を年2回実施する他、業者による消防機器の点検や火災の怖さについて講話を受けている。また、家族へも救命救急の講習会を行っている。自治会長とは日頃から連携を図り、地震発生時はホームを開放することとしており、訓練についても検討している。備蓄については食材の他、カセットコンロやランタンなど検討しながら備えている。	備えている災害備蓄については、家族へも報告を行うことで安心や、意見を受ける機会にも繋がると思われる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者お一人おひとりの人格・プライバシーに配慮した声かけや介助の仕方、態度について職員間で確認し話し合いながら適切な対応ができる様に支援を行っている。	入居者のこれまでを尊重し、声かけや誘導も一方的にならないように配慮して支援している。呼称は苗字にさん付けで対応し、同性介助を基本としている。おしゃれや身だしなみも家族の協力を得ながら、本人の好まれる衣類や髪形などを支援している。また、化粧品も不足になれば、家族へ依頼したり預り金で職員が代行し購入している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や就寝時間、日常着等をご利用者様個々にで決めて頂いている。レクレーション時にも、内容について、利用者様の希望を確認し行なっている。何かお手伝いはないですかと言ってくださる方にテーブル拭きなどお願いしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望や訴えに傾聴し、可能な限りご本人の意思に添えるように対応している。体調や心身の状態に合わせ、散歩に出かけたり、一日一日を楽しく過ごせるように支援している。行事等で日課の変更する場合は説明しご協力を得ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の好きな服や、季節に合わせた服をお聞きし着ていただいている。散髪については、資格持っている職員にて、ご利用者様に希望を聞きながらカットやカラーを行っている。ご利用者・ご家族も喜んでいたたいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食材については、代替や小さくカットしたりしながら提供している。ご利用者様の誕生日には、赤飯提供している。食材や献立を心がけ、盛り付け、色彩など配慮している。季節の行事食は、季節感を表し、職員も一緒に食事している。	ホームは食事は楽しみで健康の源であることを重要視し、調理専任者を中心に献立作成や、直接足を運んで食材の購入を行っている。旬の味や入居者の希望も取り入れた日々の料理は、色鮮やかで、嚥下力に応じた食形態、盛り付けも工夫されており、「ここの料理は大好きですもん！」と、入居者が語るよう、残菜も少ないようである。行事食は職員も一緒に摂っているが、普段は持参した弁当などと、メインの料理を食べ、副菜などは味見をおこなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが取れ、個々の嚥下状態に応じて粥、刻み食、ミキサー食等で提供している。水分量については、水分摂取の時間を設定している。必要な方については水分摂取量のチェックを行っている。栄養確保の為、栄耀補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。毎夕食後義歯預かり洗浄を行なっている。訪問歯科の指導の下、歯ブラシだけでなく、歯間ブラシやスポンジを使用し適切なケアに努めている。職員も口腔ケアの必要性を理解している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて管理し、排泄間隔の把握と声かけを行い、排泄習慣や前兆等を活かした支援を行っている。夜間、オムツ使用の方を、昼間はトイレ介助行って排泄介助している。	把握した排泄パターンを共有し、声掛けや自立の方が継続できるようにしている。リハビリパンツにパットの併用をされる方が殆どであるが、介護用品に頼らず、「布パンツは洗えばいい！」の考えのもと、プライドを大切に支援し、布パンツのみで過ごされる方も数名おられる。日中はトイレでの排泄を基本とし、夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、洗浄や消毒、日光干しにより清潔に管理し、室内にも臭気がないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に、個々に応じて毎朝起床後麦茶や牛乳、ヨーグルトなど飲用していただいている。体操や腹部マッサージなど適宜施行している。食事も食物繊維を多くとれるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の体調などを確認して、意思や希望に応じ実施している。重度化に伴い、怪我や転倒がないように、二人介助対応しているご利用者様が多い。ゆず湯や菖蒲湯など季節湯を実施している。入浴拒否ある方は時間を調整したり日程変更で入浴支援行っている。	浴室や脱衣所は清潔に管理され、気持ちよく使用できる環境であり、午前を中心に週2～3回の支援が行われている。身体状況によっては負担の無いよう、清拭が中心に行われている。拒否をされる場合には、職員を交代するなど無理なく入ってもらえるようにしている。殆どの方が2名介助が必要な状況になっている。ホームの入浴は、1対1でゆっくり会話ができ、一連の流れを一人の職員が支援してくれることが安心感に繋がっている。菖蒲や柚子を使った季節湯も、継続して取組んでいる。	入浴支援後も生き生きと脱衣所の掃除や入居者の衣類洗濯・干しに精を出す職員の姿も、日々の入浴支援の充実に繋がっていると思われる。今後も清潔保持に加え一人ひとりに応じた入浴の楽しみを把握し、支援されることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活パターンを把握し、照明や室温、安心して静かにゆっくり休んで頂ける様に支援している。又寒冷時には全室床暖房使用し室温調節に配慮している。個人によって電気毛布使用されている為温度管理も配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能、副作用について、薬局からの情報で確認おこなっている。情報管理は個人ファイルで一元化。薬の変更や、臨時での風邪薬などについては看護申し送りノートや、朝,夕の申し送り時に確認し、職員全員で把握できるようにしている。提携薬局より、内服について勉強会を4月に予定している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体状況に合わせ、洗濯物たたみ、お盆拭き、テーブル拭き、ホール内掃除などの手伝いをされたり、塗り絵、折り紙、編み物、カラオケなど楽しんで頂ける事を、毎日取り入れながら生活の支援をしている。気の合う仲間で食後茶話会されるグループもある。ドライブや近隣の散歩にて気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の支援で、ホーム近辺を散歩されたり、利用者様の希望もあり外出や外泊をされることができている。天気の良い日には職員と近辺の散歩や日向ぼっこを実施している。季節の行事で外出し、戸外で弁当を食べ過ごされた。ご家族も一緒に外出やお弁当を食べられ過ごされた。	季節や入居者の状況に応じて近隣の散歩や日光浴の機会を持っている。また、地域の情報を区長から常々受けており、入居者の外出や地域との交流の機会に繋げている。管理者は家族との外出の機会も入居者にとって大切な時間である事から、面会時に散歩を依頼したり、花見なども文章で案内を行っている。また、100歳を迎えた方の自宅でのお祝い会を促した際は、介護タクシーの手配やタクシー内で本人の不安のないような家族の席の配置をアドバイスするなど細やかな支援を行っている。	今後も外出が困難な時期や方へも、会議室や玄関先で外出気分を味わえる取り組みを継続いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の能力の応じてご家族や職員がフォローしている。ご利用者が管理されているかたもあるが、管理できない方は、預り金規定に従い預り、希望に応じた買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望により、ご家族への電話や手紙のやり取りの支援をしている。友人との手紙や葉書のやり取りも継続できているご利用者も居られる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の季節感のあるしつらえやレイアウトに配慮した支援を行っている。季節に合わせて共同作品を製作・装飾しご利用者・職員一緒に鑑賞している。室温、湿度に注意し、朝、昼、夕と玄関から窓まで全開放し換気に努めている。	ホームは玄関先からリビング、洗面台など至る所に草花や飾り物などを自然な形で配置し、季節感をゆっくり楽しめる環境が作られている。木の良さを活かし圧迫感のないリビング食堂では、フルートや職員のハーモニカなど、生の演奏を聴く機会を設けたり、会議室では近隣を眺めながらの日光浴など、部屋の特性を活かし入居者が居心地よく過ごせるようにしている。また、ホーム内の設えは、華美にならず、正月飾りでの凧は、扇風機を使って上がる様子を再現するなど、職員のアイディアが活かされている。	季節や状況に応じた室温管理につとめ、特に感染症の時期は、加湿器に加え、家族の了解を得、濡れタオルを下げる等湿度管理に努めている。また、日々の掃除を職員と一緒に手伝われる方もおられるようである。今後も入居者や来訪者にとっても居心地よく過ごせる環境に努めていかれる事を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の相性を考慮し、食事テーブルやリビングソファー等、気の合った仲間での会話や時間が楽しめる様支援している。気兼ねせずリラックスした雰囲気の中で雑談できるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には利用者や家族の写真や、塗り絵など飾っている。居室内は家具の配置を考慮し、使い慣れた愛着のある物や馴染みのある物を使用して頂き、落ち着ける空間づくりを工夫している。	本人や来訪時の家族にとっても居心地の良い居室となるよう、入居時に馴染みの品の説明やその後も状況に応じて家族と相談をしながら取り組んでいる。居室での生活が中心になられた方には、特に本人の視界や聴覚で得るもので安心してもらえるようにしている。自宅から持参された品に加え、入居後ホームで作成されたものを掲示したり、家族が新たに持参されたものなど、その時々で協力を得ながら居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る部分を活かしたケアを実践している。自分の意思で歩行器や車椅子で移動されており安全に移動できる様にホール内に物を置かないようにしたり手摺等を活用する等安全に移動できるような配慮と見守り行っている。身近で出来ることを探り、声かけ見守りをしながら、無理せず行っていただけるよう支援している。		

（別紙4）　　平成　30　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4392600096		
法人名	株式会社　かいごのみらい		
事業所名	グループホーム　武蔵ヶ丘		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町武蔵が丘北1丁目8－1		
自己評価作成日	平成31年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な住宅地の中にある地域に根差した明るく開放的なホームです。家庭的な雰囲気の中で共同生活を通して、ご利用者様個々の意思やライフスタイルを尊重しながら、職員一人ひとりが認知症介護の専門職としての意識を持ち適した支援を心掛けています。ユニットの垣根を越えた毎日の機能訓練やレクリエーション等での交流、パーソナルスペースに配慮した支援等、楽しく笑顔で安心して穏やかに過ごしていただいています。特にレクリエーションは、職員が奏でるハーモニカの音色に合わせて懐かしい歌を唄ったり等、各職員がその有する持ち味を最大限に生かした取り組みで飽きない工夫を凝らしています。また、季節のしつらえや行事、日々の散歩等で季節の移ろいを感じていただいています。自治会長様・民生委員様をはじめ、地域の皆様のご協力によるボランティア活動も活発になり、楽しみ支援の強化に繋がっています。ご家族様よりゴーヤやトマトをホームで栽培していただき、一緒に収穫したり献立メニューに取り入れ、新鮮な採れたての美味しさも味わっていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝礼時理念の唱和し、理念を念頭に置きその日の業務に従事している。理念に沿った介護を目指している。又、会議等で職員間で理念に沿ったケアを確認する場としている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様と近隣散歩継続することで声を掛けてくださる方々が増え、自治会自らホーム前の道路は出来るだけ迂回して車の運転を控える等、安全活動への配慮を実践していただけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の清掃作業や地区行事への参加、近隣の住民の方々と積極的に地域交流を図っている。また区会合に参加し、認知症についての理解を求める場への出席をしている。介護教室や認知症サポーター養成講座講師として活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーを増員し評価や意見等も幅広く活発な会議運営となりサービスの質の向上に努めている。毎回入居者様の参加と新入所のご家族様は直近の会議への出席を頂いている。積極的に情報開示し、会議での貴重なご意見や要望等、全体会議等で討議している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター運営協議委員メンバーとしての活動の継続と、都度役場へ出向きアドバイスを受け、施設の資質向上を図っている。また、福祉事務所等と協力体制を図り、スムーズな生活保護受給申請へ繋げていく。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご契約の際、身体拘束しない方向性の趣旨を必ず説明している。身体拘束がもたらす肉体的・精神的苦痛等を理解し拘束を行わないケアを実践している。身体拘束委員会の活動を積極的に開催し、委員メンバーを外部研修へ派遣し、職員研修で周知・徹底を図っている。新入職者へは都度研修を行っている。玄関に身体拘束ゼロ宣言を掲げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について身体拘束研修時に職員勉強会を実施すると共に、職員のストレスケアに努めている。職員のストレス度合いに配慮しユニット配置換えや夜勤等の回数も考慮し勤務（日課）を組んでいる。ケアカンファ時に職員がかかえている問題点を共有し相談や助言の場としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の外部研修に職員を派遣し、職員会議で研修することで制度の理解と活用方法がの周知を図っている。本部と連携し、今後コンプライアンスのついて職員への勉強会の充実を図る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書について、内容をご確認して頂き了解を得て締結している。また、改定時は本部より事前に文書通知し、ご理解の上変更契約書交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会を開催時や面会時にご要望をうかがっている。毎月担当者と管理者よりご様子を記入した「ご家族への手紙」を送付している。ご家族へ満足度調査実施し、ケアの質の向上に繋げている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者への意見や要望等を書いた手紙の提出の継続ができている。又、管理者は職員との面談を定期的に実施している。職員会議では全員が意見を述べられるよう話が出来やすい雰囲気作りに努めている。本部より、社長はじめ幹部の毎月職員会議への出席があり職員の生の意見を聴く機会を設けてタイムリー化が図れている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の導入に向け本部と連携し基盤創りの着手している。また、同法人内の配置転換の希望をつのり、職員の離職防止と向上心をかき立てられるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修受講できる様に情報提供し参加を推奨している。又、職員より受講したい研修や資格を聴きとり行い、更なる向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括と連携しSOSネットワークの基盤創りに着手している。また、同町グループホーム運営推進会議への参加とミーティングを行い、問題点や課題の解決できるよう主となり働き掛けている。地域包括支援運営協議委員メンバーとしての活動の継続と、都度役場へ出向きアドバイスを受け、施設の資質向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に職員間で情報共有の機会を設け、生活歴やリスクの把握に努め、安心してご利用できるよう環境つくりに努めている。不安感の軽減の為、時間をとり落ちつけるスペースでマンツーマンで傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問で、ご本人、ご家族と面談し状況把握や支援内容の確認を行っている。今、何が必要なのかを探り対応するとともに、全職員への情報の周知及び共有を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をもとに入所前にカンファレンスを行い、必要な支援を全職員で討議し、情報の再確認と共有、統一した支援に努めている。また、訪問マッサージや訪問歯科等のご利用されている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が出勤時には、お一人お一人に挨拶をして、一日の始まりの関係作りから心掛けている。又、馴染みの関係性の構築や洗濯ものたたみ、掃除、玄関周辺の掃き掃除など出来る方と一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月／1回手紙で近況報告継続している。面会時には、ご家族様と入居者様が面会しやすい環境の提供と日頃の様子を伝えている。季節の行事や外出等、ご家族様が調理手伝いや後片付け、外野菜の栽培等の援助も頂ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人・馴染みの場所などの把握を行い、定期的な面会や外出などの援助が出来ている。面会時にご家族と近隣の散歩の促し、ホームの行事へ、ご家族の参加の声掛けを行い一緒に過ごして頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性を考慮し、テーブルでの席について調和を考慮している。トラブルが発生しないように状況確認している。パーソナルスペースを大事にされているご利用者様へは見守りや声かけを行い孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への定期的な訪問や安否確認、ご家族へ手紙や電話等の連絡を行ない、相談・援助や継続訪問している。施設紹介等も行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で、ご利用者様へ声かけを行いお一人おひとりの思いの把握に努めている。定期的なカンファレンスにて意向等検討することで、情報共有後、統一した支援を行っている。ご本人の希望を最優先にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者様・ご家族・入居前の担当ケアマネや利用されていたサービス事業所・主治医等関係各位から情報収集し・ご本人の状況把握に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様のこれまでの生活や嗜好等の情報を取り入れ、個人を尊重した支援の実践のため、都度話し合い行なっている。毎日健康チェックや状態観察を行い、生活の中で気付きと生活リズムに合わせた支援の継続している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様ご御家族より生活暦等の情報を聞き取りし支援に努めている。カンファレンス、モニタリングを定期的に行い、ご入居者様やご家族の希望を確認し、アセスメントを修正しながら意向を十分に反映した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に経過記録、日誌、排泄、血圧、食事量、水分摂取等の記録を行ない、経過観察することで心身の管理や変化に気づくことが出来る。介護・看護連絡ノートを活用し情報の共有を図っている。問題等あれば都度ミーティングしノートに記載しているs		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や緊急時の受診、身の回りの必要品の買い物や、職員による理美容のサービス、入院時における身の回りの洗濯物等の支援等、都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアなどの訪問で、歌や踊り、三味線など楽しんで頂いている。ハーバリウム製作やちぎり絵製作など居室に飾られている。天気の良い日には近隣を散歩し、庭に咲く花等で季節を感じてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医より健康管理については、週1回の訪問診療で対応し、ご家族様へ報告している。主治医と連携し専門医への必要な医療が受けられるよう支援している。主治医の看取りケアへの理解を得て協力を頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態観察とご利用者様からの訴え、異変の早期発見に努め、異変があったときには速やかに看護師へ伝え、看護師は主治医と連係し適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して入院加療ができる様に、入院先の医師、相談員、看護師と面談行いホームでの情報提供行っている。また、頻繁にご家族と連絡をとり、本人面会行い、相談員・看護師より入院時の状況把握に努めている。洗濯物の支援等も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期・重度化について、御家族、主治医との連携を行い、想定される状態やホームにおける看取りについて充分な説明行い、支援に取り組んでいる。「重度化した場合に医療連携体制指針」についての同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や特変時に備え、緊急時の勉強会している。感染発症時の対策について法人として統一したマニュアル作成に取り組んでいる。提携薬局より応急処置の研修予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署立会いの訓練を行っている。消防機器の点検を業者に依頼し、何時でも使用可能な状態にしてある。災害発生時に備え、食材は常に備蓄している状態である。自治会長と連携し地震災害への訓練の検討もしてる。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者お一人おひとりの人格・プライバシーに配慮した声かけや介助の仕方、態度について職員間で確認し話し合いながら適切な対応ができる様に支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や就寝時間、日常着等をご利用者様個々にで決めて頂いている。レクレーション時にも、内容について、利用者様の希望を確認し行なっている。何かお手伝いはないですかと言ってくださる方にテーブル拭きなどお願いしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望や訴えに傾聴し、可能な限りご本人の意思に添えるように対応している。体調や心身の状態に合わせ、散歩に出かけたり、一日一日を楽しく過ごせるように支援している。行事等で日課の変更する場合は説明しご協力を得ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の好きな服や、季節に合わせた服をお聞きし着ていただいている。散髪については、資格持っている職員にて、ご利用者様に希望を聞きながらカットやカラーを行っている。ご利用者・ご家族も喜んでいたたいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食材については、代替や小さく刻んだりしながら提供している。ご利用者様の誕生日には、赤飯提供している。食材や献立を心がけ、盛り付け、色彩など配慮している。季節の行事食は、季節感を表し、職員も一緒に食事している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが取れ、個々の嚥下状態に応じて粥、刻み食、ミキサー食等で提供している。水分量については、水分摂取の時間を設定している。必要な方については水分摂取量のチェックを行っている。栄養確保の為、栄耀補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。毎夕食後義歯預かり洗浄を行なっている。訪問歯科の指導の下、歯ブラシだけでなく、歯間ブラシやスポンジを使用し適切なケアに努めている。職員も口腔ケアの必要性を理解している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて管理し、排泄間隔の把握と声かけを行い、排泄習慣や前兆等を活かした支援を行っている。夜間、オムツ使用の方を、昼間はトイレ介助行って排泄介助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に、個々に応じて毎朝起床後麦茶や牛乳、ヨーグルトなど飲用していただいている。体操や腹部マッサージなど適宜施行している。食事も食物繊維を多くとれるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の体調などを確認して、意思や希望に応じ実施している。重度化に伴い、怪我や転倒がないように、二人介助対応しているご利用者様が多い。ゆず湯や菖蒲湯など季節湯を実施している。入浴拒否ある方は時間を調整したり日程変更で入浴支援行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活パターンを把握し、照明や室温、安心して静かにゆっくり休んで頂ける様に支援している。又寒冷時には全室床暖房使用し室温調節に配慮している。個人によって電気毛布使用されている為温度管理も配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能、副作用について、薬局からの情報で確認おこなっている。情報管理は個人ファイルで一元化。薬の変更や、臨時での風邪薬などについては看護申し送りノートや、朝,夕の申し送り時に確認し、職員全員で把握できるようにしている。提携薬局より、内服について勉強会を4月に予定している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体状況に合わせ、洗濯物たたみ、お盆拭き、テーブル拭き、ホール内掃除などの手伝いをされたり、塗り絵、折り紙、編み物、カラオケなど楽しんで頂ける事を、毎日取り入れながら生活の支援をしている。気の合う仲間で食後茶話会されるグループもある。ドライブや近隣の散歩にて気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の支援で、ホーム近辺を散歩されたり、利用者様の希望もあり外出や外泊をされることができている。天気の良い日には職員と近辺の散歩や日向ぼっこを実施している。季節の行事で外出し、戸外で弁当を食べ過ごされた。ご家族も一緒に外出やお弁当を食べられ過ごされた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の能力の応じてご家族や職員がフォローしている。ご利用者が管理されているかたもあるが、管理できない方は、預り金規定に従い預り、希望に応じた買い物の支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望により、ご家族への電話や手紙のやり取りの支援をしている。友人との手紙や葉書のやり取りも継続できているご利用者も居られる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の季節感のあるしつらえやレイアウトに配慮した支援を行っている。季節に合わせて共同作品を製作・装飾しご利用者・職員一緒に鑑賞している。室温、湿度に注意し、朝、昼、夕と玄関から窓まで全開放し換気に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の相性を考慮し、食事テーブルやリビングソファー等、気の合った仲間での会話や時間が楽しめる様支援している。気兼ねせずリラックスした雰囲気の中で雑談できるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には利用者や家族の写真や、塗り絵など飾っている。居室内は家具の配置を考慮し、使い慣れた愛着のある物や馴染みのある物を使用して頂き、落ち着ける空間づくりを工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る部分を活かしたケアを実践している。自分の意思で歩行器や車椅子で移動されており安全に移動できる様にホール内に物を置かないようにしたり手摺等を活用する等安全に移動できるような配慮と見守り行っている。身近で出来ることを探り、声かけ見守りをしながら、無理せず行っていただけるよう支援している。		